

主体的な鑑賞の能力を高める美術科学習の在り方 ーデザインの鑑賞学習の実践よりー

美術科 栗原 理恵

1 はじめに

技術革新が目覚ましい現代においては、人々の要求・欲求に応えるために次々と新しい素材や技術が開発され、日常生活の中で使われるもののデザインにも影響を与えている。燃やしても有害なガスの出ない素材を使用したものや、古くなったものに手を入れてリニューアルさせたものなど、環境問題に配慮したデザインが増えているようだ。それらは素早くインターネットやテレビなどのメディアを通して広まり、手元に届き、遠く離れた国まで届けられる。その点では、デザインの世界は豊かになってきていると言えるだろう。

しかし、以前から指摘されていることではあるが、ものの豊富さが身近な生活や社会をより美しく心豊かなものにしているかという点、そう言いきれない部分が見られるのも事実である。子ども達の様子には、無作為に選択した、あるいは与えられたものに関して愛着が薄く、無くしたものの執着心もあまりない傾向も見られる。身近なところでは、持ち主の現れない落とし物が学期末に処分の対象となるなどの問題にもなっている。デザインには目的があり、それを適えるために造形的に工夫されており、デザイナーや職人が意図をもってつくっていることなどを想像し、美しいものやよいものを感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、子ども達が主体的に鑑賞活動に取り組み、思いを語り合い、自分や友達の価値観を理解し合う学習は、重要なのではないかと考える。

今回は、それらのことを鑑みつつ、共同研究のテーマでもある活用型学習活動の在り方、特に美術科における学習活動の在り方を探るべく、過去に学んだことや体験的に感じ取ったことなどを意識させながら、身近なプロダクトデザインの鑑賞学習を行った。その際、中教審答申における活用型学習活動例との関連についての考察を加えながら、よりよい学習活動の在り方を模索した。

2 実践例

(1) 実践上の留意点

題 目	自分にとってのNo.1を探そう
本時のねらい	・造形のさまざまな諸要素から、つくられた目的や、機能との調和のとれた造形的なよさや美しさを感じ取る。
活用型学習活動を通して育てたい力	・つくられたものの目的や、機能との調和のとれた造形的なよさや美しさを感じ取る
中教審答申における活用型学習活動例との関連	
① 体験から感じ取ったことを表現する 実際にイスに座り、一番よいと思うイスを探し、その理由を発表する。	学習課題や授業過程で留意すべきこと [言葉の適切な使用]

何を活用させたのか

- ・今までに学習した、形と色彩、造形の諸要素に関する知識・技能
- ・日常の中で体験的に感じ取ったこと

活用させるための三つの手だて

- ①形・色・材料・光といった造形の諸要素から感じたことを意識させ、それをもとに表現させる。
- ②ワークシート等を使い、自分の学習の進捗状況や、達成度を認識させる。
- ③なぜそのように感じたか、考えたかを、（伝える相手を意識して）言葉を使用して発表したり、発表を見たり聞いたりさせる。

資料1 中教審答申における活用型学習活動例

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

資料2 我が校の共同研究（テーマ「新しい時代に対応した授業の在り方を考える－活用型学習活動の実践を通して－」）として、有薗格氏（岐阜女子大学教授）の、「学習で習得する基礎的・基本的な知識・技能を生きる力として“活用できる知識・技能”へと質的に高めていくことを目指す。」という考え方を参考とすることとした。具体的には、以下の2点である。

ア 各教科で習得された基礎的・基本的な知識・技能を「活用」することで、その内容の理解をより深められるような活動であること。

イ 「活用」することで、「探究」につながるような、活用能力（何を使うか、いかに使うか等）を身に付けさせることを意図した活動であること。

資料3 本校共同研として、手立てとして留意する3つのポイント

- ①生徒に、自己の学習状況を認知する機会を持たせること。 【自己の学習状況の認知】
- ②生徒が、自己の思考を深めたり、自分の言いたいことを他の生徒にうまく伝えられるようにするために言葉適切に使用し、集団における思考を深めたりすること。 【言葉の適切な使用】
- ③生徒が、他者との関わりの中で、相手がどのような状況にあるのか意識し、それに合わせた表現をしたり、知識・技能を活用したりすること。 【対人意識】

資料4 美術科関係資料 学習目標の根拠 新学習指導要領より

領域 A 表現

項目 (2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。

- 事項 ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。
- ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。

領域 B 鑑賞

項目 (1) 略

- 事項 ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

(2) 指導計画

美術科学習指導案

平成21年11月6日 2年1組 40名 授業者 泉原 理恵

1 題材名 No.1のイスをつくる。

2 題材概

(1) 題材設定の理由

私たちの身の回りに、デザインされ生産されたものが溢れている。それらは目的を達すれば消費され捨てていくが、いくつかは残り、後世へと受け継がれていく。現在、美術館や博物館に保存されている「作品」も、始まりは一つの工業製品だったのではないだろうか。その時代の職人が、デザイナーが目指した、生活に使われるものの質的な向上の指針を元に今日のデザインがあるのだろう。そこで、デザインに関する学習では、身近なものを題材に取り入れ、生活を实际的に創造し自分をより高めていくという態度や、造形的なものとの考え方、豊かな感じ方、自ら課題を設定し解決する力などを身につけることをねらいとしたいと考えている。

今回は、子どもたちにとって身近な工業製品のひとつであるイスを題材として取り上げる。学校生活では「座って」多くの時間を過ごす。体を動かしては「座って」休み、中庭のイスに「座って」友と語り合う。このイスのデザインには様々な匠のコンクールで高く評価されている。この身近な工業製品を鑑賞・表現の両面から取り上げることで、日常生活の中にある美への関心を高め、美を追求しようとする意欲を喚起し、自らの美への価値意識を明確にさせたいと考えている。

(2) 生徒の実態から

学習に対する意欲が高く、与えられた課題に前向きに取り組む生徒が多い。その反面、「美術作品をどう見ればよいかわからない」という感想に表れているように、課題に対して遠く考えてしまい、自分がどう感じているかわからない、あるいは、感じていることに気付いていない、相手の感じ方を理解しにくいという生徒の実態も見られる。

そこで、作品を感じる際の視点を増やすように、形や色、光、材料といった、造形の諸要素からどのように感じ、どんな感情がわいたかを意識しながら表現する授業を案内している。今回は、題材全体の導入における鑑賞の授業において、見た目のよさや美しさを取り心地を体験的に感じ取らせ、視座の移転を刺激する。ここで得たデザインを見る際の視点をふまえて、よりよいイスのアイデアを考え、実際にイスのマケット（ミニチュアの模型）を制作することで、自らの美への価値意識を明確にしていけることをねらいとしている。

- 1 -

(3) 研究テーマとの関連

本校美術科では、子どもの未来、すなわち生涯に渡って美術を愛好する生徒の育成と、時教研員による形骸化が危ぶまれている美術科学習活動の本来を継承することをテーマとした「本来につながる美術科授業の在り方」を考える一環として、創造する喜びを味わう授業の実践を通して「をテーマに研究を進めている。そこで、感じ取る、創造する喜びを味わうには、主体的な学びが重要と考え、過去の学習で学んだことや日常生活から得た知識・技能、他教科の学習内容から得たことの中から必要なものを選択し、美術の学習に生かせる題材の設定と手立てを工夫している。

今回は、題材の導入として、イスを鑑賞する際の視点を授業である。実際にイスに座り、比べながら、今までの美術の学習で学んだ知識・技能や日常生活の中で体験的に身につけている知識を使い、よいイスの理由を探していく。そして、この後のイスのマケット制作に、ここで得たデザインを見る際の視点を活用させたい。

この学年は、第1学年時のデザインの授業で、造形の諸要素（形・色彩・材料・光）を工夫することで、あるイメージを伝えられることを学んでいる。この題材全体を通して、デザインには「ある目的を達成するための工夫」があることを理解させ、工業デザイン、建築デザイン、都市計画など、幅広いデザインを見る際の視点をもちたことで、今後の作品制作での豊かな発想や鑑賞の能力など、生涯に生かせる美術の力を育むことが出来ると考えている。

3 学習目標

- 日常生活に美術が関わっていることを知り、身近な工業製品や工業製品のデザインへの関心を高める。
(関心・意欲・態度)
- 使用する素材や機能、造形的な美しさなどを総合的に考え、心豊かに決断を練る。
(発想・構想の能力)
- 主題にあった用具や材料、技法を選択し、見通しをもって表現する。
(創造的な技能)
- イスのつくられた目的や機能との調和のとれた造形的なよさや美しさを感じ取る。
(鑑賞の能力)

4 指導計画

- (1) 導入・鑑賞、材料探し・・・・・・・・・1時間（本時）
- (2) 制作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6時間
- (3) 鑑賞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

総時間数 8 時間

5 本時の指導

- (1) 題 目 『自分にとってのNo.1を探そう』
- (2) 目 標 イスのつくられた目的や機能との調和のとれた造形的なよさや美しさを感じ取る。
(鑑賞の能力)

- 2 -

(3) 展開

具体目標	学習活動・内容	指導上の留意点	準備
・学習目標と 学習内容を確 固とする。	1 学習目標及び学習内容を 確認し、本時の授業に入る準備 をする。 学習目標【よいイスとは何かを 考えよう】	・イスの起源や「椅」の成り立ちを紹介する。 ・学習で身に付けた態度や能力が生活で生きる こと、美的判断力を高めるために、身近なデザ インであるイスを鑑賞する学習内容であること を知らせ、課題意識を芽生えさせる。	教科書 参考資料
・目的や機能 との調和のと れた美しさ などを感じ取 る。	2 イスの座り心地を確かめ ながら、よさや美しさを感じ取 り、さらに目的と機能につい てなどを感じ取る。 ・自分で一番よいと考えたイス を選び、その理由を明らかにす る。	・様々なイスを比べ、自分にとって一番よいイ スを探させる。 ・あえて視点を与えずに、自由にイスを比べて 自分にとって一番よいイスを探させることで、 イスを鑑賞する際の視点を考えさせる。 ・なぜそのイスがよいのか、今までに美術で学ん だことや生活経験から、理由を考えさせる。 図・図【言葉の適切な使用】 ・文意で書きにくい部分は、図で示させる。	椅子 7-21
・目的や機能 についての考 えを深める。	3 全体で意見を発表し合う。 ・どの様な理由でよいイスとし たかを発表し合うことで、イス を鑑賞するときの視点をもち、 発想へのヒントとさせる。 図・図【言葉の適切な使用】 ・使いやすさについては、目的に応じた機能を もたせてあり、そのために造形的な工夫がある ことに気付かせる。 ※生徒から出てくる視点として期待されるもの 図りやすさ（図りやすさの図解、保管 しやすい、移動しやすいなど、管理面で図り やすさ）形・色彩・材料→目的、強度、時代性 ・よりよいイスの発想が浮かんだ生徒には、ア イディアスケッチをさせるなどして、次回から の制作の授業へとつなげる。	・意見を発表させ、さまざまな考えを発表し合 い、その理由からイスを鑑賞するときの視点を 整理させ、次回から始まる制作のための豊かな 発想へのヒントとさせる。 図・図【言葉の適切な使用】 ・文意で書きにくい部分は、図で示させる。	
・本時のまと めと、次時の 内容を確認す る。	4 まとめを行う。 ・生活の中に生きているデザインに ついて振り返る。 ・次回の授業で、用意する材料 や用具について考える。	・身の回りにある、デザインされた製品や作品 などを見る時の視点について振り返らせる。 ・制作に入るために必要な材料や用具について 考えさせ、次時につなげる。	姿勢につ いての資 料 マケット

- 3 -

鑑賞プリント デザイン

2019.11.06

自分にとってのNo.1を探そう

年 組 番 氏名

学習目標

1 No.1のイスはどれですか？

鑑賞したイスのよさをアンダーラインをひこう。

結論

番

2 発表を聞いて、付け加えたい視点を気付いたら記入しよう。

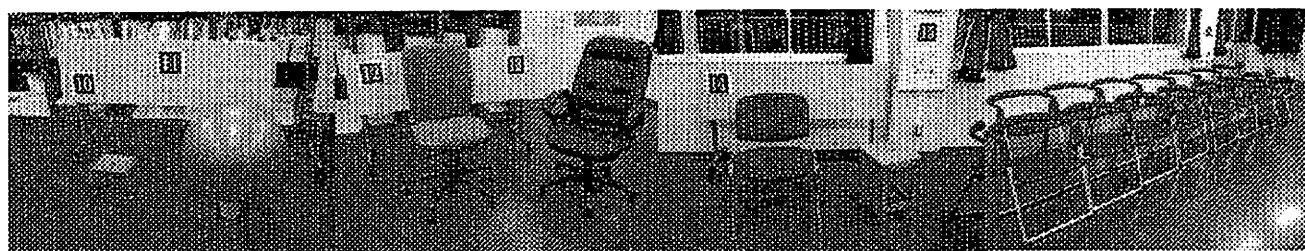
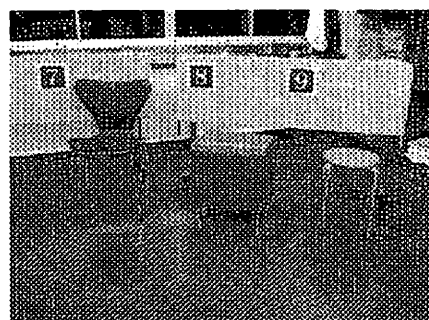
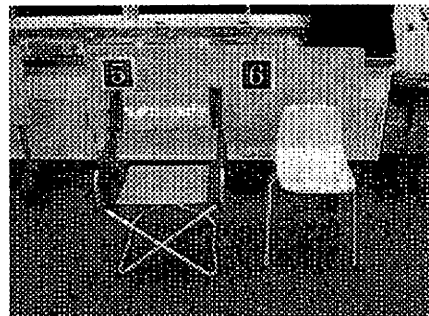
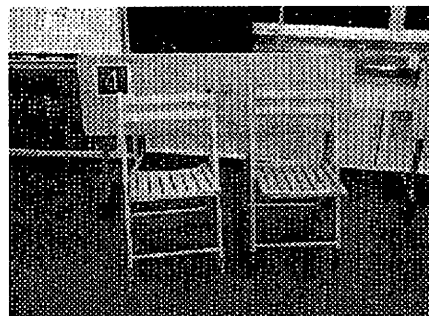
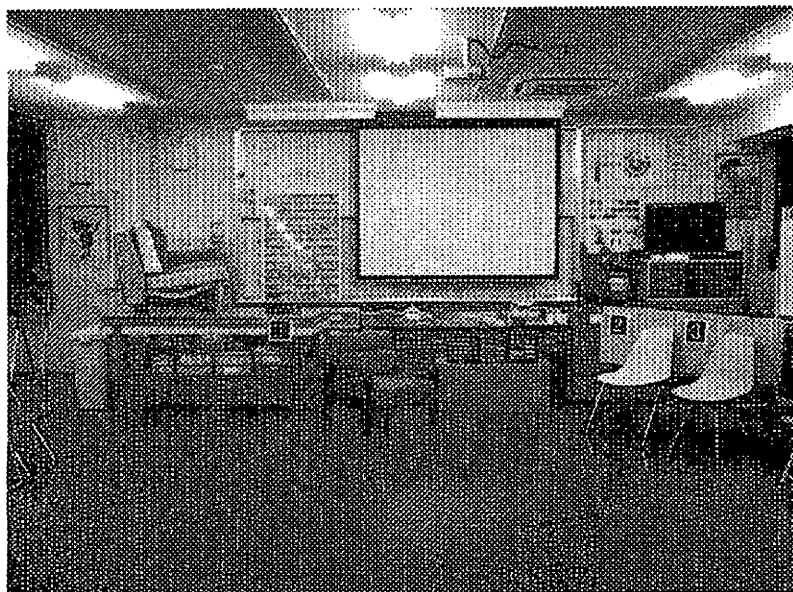
*書ききれなかった人は、書くところを

イスを鑑賞するときの視点

解 説

資料6 授業で使ったイス

- ①一人用ソファ②一人用イス（イームズのシェルチェア：脚が金属のもの）
 ③一人用イス（イームズのシェルチェア：脚が木製のもの）
 ④木製折りたたみイス⑤アルミ製折りたたみイス⑥図書室のイス
 ⑦セブンチェア⑧一人用ソファ（灰：背もたれなし）
 ⑨丸イス（木製）⑩風呂用ミニイス（ジョッキンギベック、アクリル樹脂製）
 ⑪バランスボール⑫事務用イス（青）⑬事務用イス（黒）
 ⑭会議用のイス⑮技術室の角イス⑯パイプイス（ブロンクス 1010）
 ⑰リトフェルトの椅子の模型⑱ソファの断面の模型



※ 中学校で使われているイスの他、家具店、美術館、個人からお借りした。

（3）評価について

イスのつくられた目的^①や機能との調和のとれた造形的なよさや美しさ^②を感じ取れているか。

（鑑賞の能力）

この授業では、生徒は、なぜそう感じたかを明らかにさせながら No.1 のイスを探す。その中で、デザインを学ぶ視点として、①形や色彩、図柄の工夫があること、②機能を考え目的に適えるための計画があることの2点があることを理解させ、学習の方向付けをしてきた。そこで、授業中の観察とワークシートへの記述の様子から、「座る」という大きな目的をふまえ、それを達成するための造形的なよさや美しさを感じ取っている生徒を B（おおむね満足）とした。また、下線①について、その使用者や使用場所について具体的に考えていたり、下線②において目的と機能と造形的なよさを関連づけてよさや美しさについて記述していたりする生徒を A（十分満足）とした。

(4) 活用させるための三つの手だてに対する考察

①形・色・材料・光といった造形の諸要素から感じたことを意識させ、それをもとに表現させる。

今回は、「30秒見てから座る」というルールをもって鑑賞させた。これは、座り心地や機能に関する視点だけでなく見て感じ取ったよさや美しさ視点にも気づかせるためである。このことで、形の工夫が機能の向上に一役買っていることに気づいた生徒が多かった。さらに深く考えさせ、デザインとは、見た目を飾ること（意匠を凝らすこと）だけでなく、ある目的を適えるための計画やプロジェクトでもあることに気付かせたい。

また、あえてイスを見るときの視点は与えないようにしたが、生徒は、形・色などの造形的な観点を意識して鑑賞していた。1年生の後半で学んだ、形、色彩、素材等の視点をもって制作・鑑賞するという既習内容はこの鑑賞にいかされていたと考えられる。

鑑賞するイスには、様々な材料でつくられたものを用意した。これは、この後の制作の時に各自が工夫して材料を集め、制作できるようにである。粗い、硬い、なめらか、柔らか、しなやか、冷たい、温かい、重い、軽いなど、人間の感覚や感情に強く働きかける視覚的な特性について気づかせることも、立体作品の制作及び鑑賞では大切だと考えている。ここでは、心情的な視点から理由を述べている生徒もいたので、最後の発表会で取り上げて、造形の工夫やもたせている機能が心情に影響を及ぼしていることまでを考えさせられるとさらによかった。印象的だったのは、日常の中で体験的に感じ取ったことに関しての生徒の記述である。ある生徒は、ピアノのイスと、全く新しいタイプのイスで悩んでいた。ピアノのイスは座り心地は悪いのかもしれないが、慣れ親しんでいるためにいいと感じているため迷ったそう。人はどのような基準でものをよいと決めているのかという、人間の感覚に関する考察が伺える。ここには日常の体験から感じ取ったことが活用されていたかもしれない。

②ワークシート等を使い、自分の学習の進捗状況や、達成度を認識させる。

鑑賞において造形的な視点を豊かにもって対象をとらえさせるために、言葉で考えさせ整理させた。言葉にすることにより、それまでは漠然と見ていたことが整理され、イスを見る時の視点が明確になってきた。

生徒のワークシートへの記述より

- ・形や色は分かっていたけど、気持ちまでは考えていなかった。
- ・イスは日本では歴史が少ないけれど、外国では歴史が多いことが分かった。
- ・イスを見るときの視点として形・色・素材があった。つくるときに気をつけたい。
- ・イスにはいろいろな形があり特徴があるけれど、それぞれ視点毎に分けられることが分かった。

③なぜそのように感じたか、考えたかを、（伝える相手を意識して）言葉を使用して発表したり、発表を見たり聞いたりさせる。

今回は、一斉授業の形態で発表させたため、対教師を意識した発言やつぶやきが多かったため、教師はその一言一言を拾い、なぜそう考えたのか、イスのどこから感じ取ったのかを聞き取り始点毎に分類していくことで、発表を聞いている他の生徒の理解を助けるようにした（KJ法）。すると、ワークシートには、手だて①②で挙げたような端的な書

自分にとっての No.1を探そう

平野自傳

[illegible]

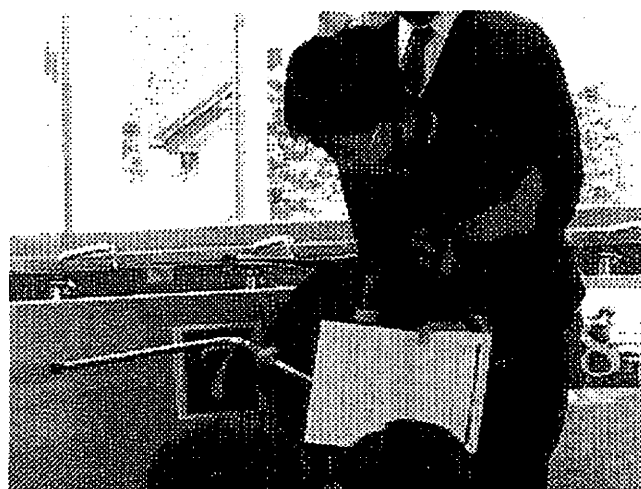
⑤ 奥の手を引いて、何れか加えたい項目に書いていってら記入しよう

1-401 2/10/71
1055 2000

イスを倒置すると世の視点

材料 機能 感能 開分

依りつゝにその買ひをひきつゝ
 代り加へ、~~必要~~



イスを持ち上げて構造の説明をする場面

S1の生徒のワークシート

対話の記録

S1 = 生徒 T = 教師

T:なぜこのイスを選んだの？

\$1: なんか、背もたれが丸くなっていて、肩のところが寄りかかれるのがよかった。

(形)

あと、脚が細いんですけど、その分強度が落ちてしまうと思うんですが、座るとちょっ

(形)

と、見栄えがよろしいかな。

(形)

T: 形について感じたことだね。その他は？

S1: まず、後ろ、ここのところなんですけど、他のも見られるんですけど、骨組みがクロスに

(形・構造)

なっている上に、ここにこれ(プラスチックのカバー)が被せてあって、なかなか強度が増しているんじゃないかと思う。

(構造を工夫し、強度をもたせている点)

T:なるほど。構造に気がついたんだね。

また、ワークシートへの記述は詳細に示されており、関心・意欲の高い生徒でも、発表が苦手な生徒の場合には、対話の最後にイスに関する興味を引きそうな情報を伝えるなどしてフォローを入れた。

対話の記録

S2 = 生徒 T = 教師

T : S2さんは、どう？

S2: 座るところとかツヤがあって、よかった。

(質感)

T: ツヤがあると、どんな感じがするかな。

S2: 高級 そうな感じがするから。なんとなく、存在感を感じました。

(感じ取ったこと)

あとは座ったときに、何気ない
しなやかさがあるのもよかった。
(感じ取ったこと)

T:何気ないしなやかさって?

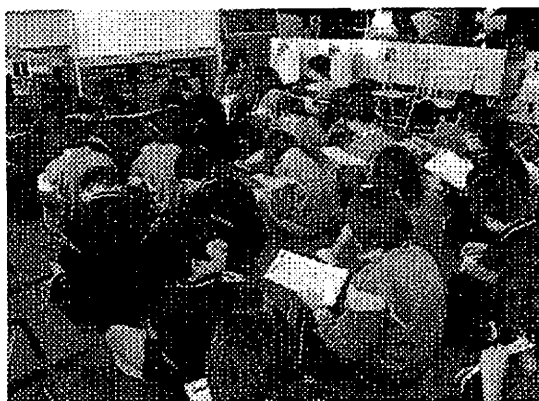
S2:固そうなんだけど、背もたれは、
こう、ぐいっとしなる。

T:そうですね。実はこのイスは7枚の
薄く削った板を貼り合わせて、熱と
蒸気を加えて曲げ、固めて、つくる
ことで、強度を増す工夫がされて
います。だから、こんな風にしなる
し、丈夫だよ。寄りかかってもな
かなか壊れません。



S2の生徒の発表の場面とワークシート

さらに、選んだ一つのイスについて
記述させるのではなく、様々なイスに
ついて感じ取ったことを記述させる方
法をとったため、普段、ワークシート
への記述が苦手な生徒S3にとっても、
書きやすかったようである。このよう
な工夫は、今後も続けたい。



S3の生徒のワークシート

4冊

自分にとっての No.1を探そう

2.3 4 5 6

学習目標 よいイスは行か考えた

1 No.1のイスはどれですか?

④ 座面が斜めで足んぐりくぐりがいい。 *たまたまおもしろい感じがする*
 ⑤ 少し背もたれの太さがいい感じがする。
 ⑥ シンチレなめだが、背もたれがしっかりして強度がありそう
 ⑦ お利便にはストレンが、背もたれは太く、座面はフワフワしている
 ⑧ 体にフィットして、長く座っても疲れなさそうで光沢のある素材が目を
 ⑨ 何重もの板でできていて、背もたれの角度が変化する
 ⑩ 背もたれの部分が逆二重の構造で、お尻がたよりず、お尻が
 座ると細くてその分強度は高そう。座ると座るとお尻が
 座面に沈み込む感じがする。 *お尻が沈み込む感じがする*
 つまみ (押さえる) 押し (押さえる) *押し (押さえる)*
 ✓ 足踏 (踏みこむ) 踏み (踏みこむ) *踏み (踏みこむ)*
 高さがあって、座るとお尻が沈み込む感じがする。
 座面が沈み込む感じがする。

結果 7

2 発表を聞いて、付け加えたい視点に気付いたら記入しよう

イスを鑑賞するときの視点

材料、色、形状、機能

感想

何気ない座っているイスをよき感じによって、お尻が沈み込む感じがする
 と思った。

図鑑より 4冊

2.3 4 5 6

自分にとっての No.1を探そう

2.3 4 5 6

学習目標 よいイスは行か考えた

1 No.1のイスはどれですか?

③ 背もたれが傾いて座りやすい
 ④ 座面が斜めで足んぐりくぐりがいい
 ⑤ 少し背もたれの太さがいい感じがする。
 ⑥ シンチレなめだが、背もたれがしっかりして強度がありそう
 ⑦ お利便にはストレンが、背もたれは太く、座面はフワフワしている
 ⑧ 体にフィットして、長く座っても疲れなさそうで光沢のある素材が目を
 ⑨ 何重もの板でできていて、背もたれの角度が変化する
 ⑩ 背もたれの部分が逆二重の構造で、お尻がたよりず、お尻が
 座ると細くてその分強度は高そう。座ると座るとお尻が
 座面に沈み込む感じがする。 *お尻が沈み込む感じがする*
 つまみ (押さえる) 押し (押さえる) *押し (押さえる)*
 ✓ 足踏 (踏みこむ) 踏み (踏みこむ) *踏み (踏みこむ)*
 高さがあって、座るとお尻が沈み込む感じがする。
 座面が沈み込む感じがする。

結果 12

2 発表を聞いて、付け加えたい視点に気付いたら記入しよう

イスを鑑賞するときの視点

材料、色、形状、機能

感想

何気ない座っているイスをよき感じによって、お尻が沈み込む感じがする
 と思った。

エ 授業終了後のアンケートより

□ あなたは、NO1のイスを決める時に何を参考にしましたか？

- ・座りやすさ、座り心地 19人 ・座面の堅さ 1人 ・材質、素材 4人 ・色 5人 ・金銭面 1人
- ・形 4人 ・高さ 1人 ・大きさ 2人 ・デザイン 7人 ・見た目 5人 ・機能性 11人
- ・ふわふわさ、やわらかさ 3人 ・落ち着けるか 1人 ・飽きない 1人 ・特徴 1人 ・楽しさ 1人
- ・感情 3人 ・座ってみて自分がどう思ったか、自分の感覚 5 ・実際の感覚 1人 ・バランス 1人
- ・安定しているかどうか 2人 ・何のために使われているか、目的 1人 ・今までの経験 1人

□ 今日の授業をとおして、イスを鑑賞する視点が増えましたか？

とても増えた まあまあ増えた 少し増えた ほとんどかわらなかった

+-----+-----+-----+-----+
 5人 26人 5人 0人

- ・いろんな見方が出来た。色々な視点があった。11人 ・座ってみないと分からないことが分かった。
- ・この先イスに座ったりするときに、比べられるからよい。・みんなの意見を聞いたから、参考になった。9人
- ・毎日考えていることを、改めて考えただけのため ・デザインに気を取られていた。材料についても考えたい。
- ・イス一つで気持ちが変わることが分かった 1人 ・今まで考える機会が無かったから ・学習したから 1人
- ・何気なく座っていたが、今回座ってみて分かった ・自分の家にあるイスを思い浮かべて考えた
- ・前は何も感じたことがなかったけど、今は、少し興味が出てきた 1人 ・実際に比較しながら座ったから 2人
- ・どう座ればきもちいいか、どんなイスがきもちいいか考えた 1人 ・自分で書いたから。1人

アンケートからは、過去に学んだことから視点を見つけている生徒の様子が見える。ただし、ここで得た視点には、他の視点を含む視点、例えば、「見た目」には「形」「色」「質感」などの視点が含まれるため、具体的な表現を加えた方がより思いが伝わりやすいことに留意させたい。

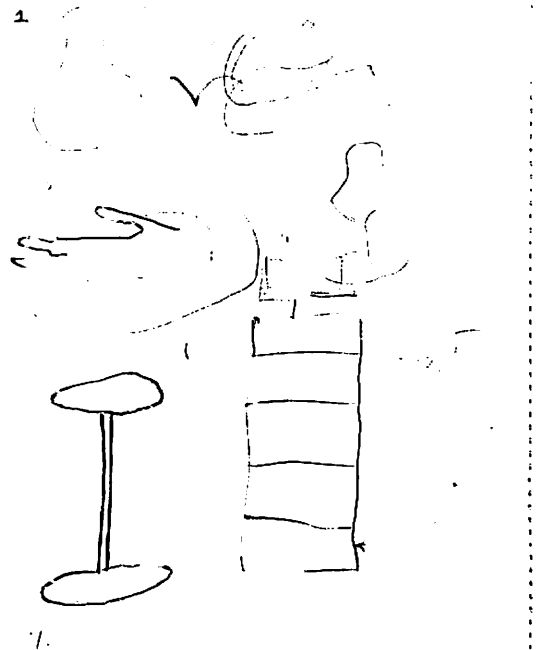
オ その後のマケット*制作（6時間）で完成した作品例

※マケット＝模型。ただし、機能性を具備したモデル（模型）とは違い、見た目を表現するに留まるもの。

○アイディアスケッチ

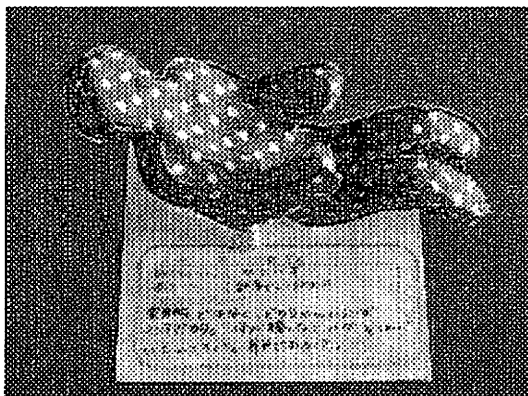


A 生徒のアイディアスケッチ

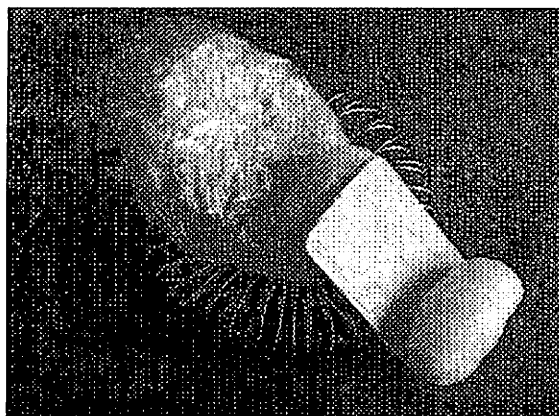


B 生徒のアイディアスケッチ

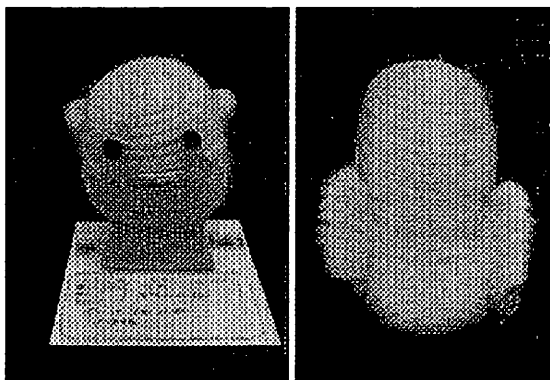
例年よりも、座り心地を考えた形の工夫のあるアイディアスケッチが多く見られた。



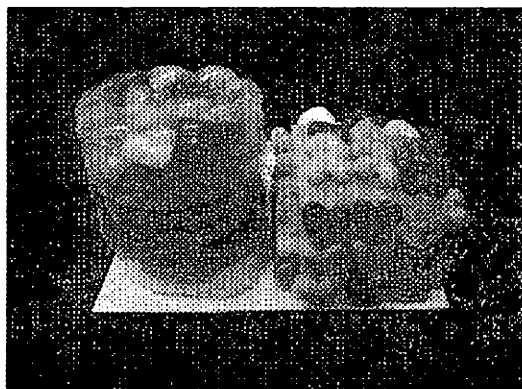
A 生徒 見る人を微笑ませるアイデア。芯は木材で、その周りにクッションとなる綿を入れ、布でくるんである。ソファと同じ造りである。微妙にカーヴした背もたれと座面にも形に工夫がある。マケットの裏面にはアルミ箔を貼り、金属で補強されており強度も十分であることを表している。



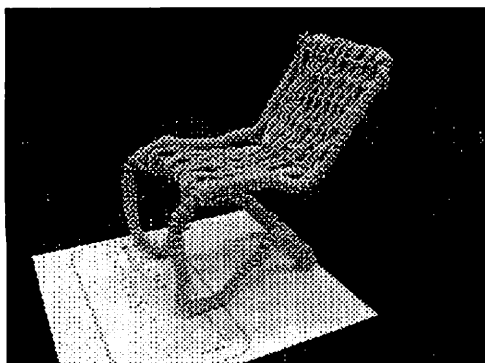
B 生徒 金属と透明ジェルろうそくとエコスティック（工業用澱粉を主原料に、副原料としてポリプロピレン（PP）と PP を自然分解させるデグラノボンを使用したバラ状緩衝材）とパルサ材という、触感の違う材料を組み合わせ、それぞれの見た目やさわり心地を楽しむことを目的としたイス。特に、背もたれ～座面のクッション性のよさ、触感の心地よさが売りである。



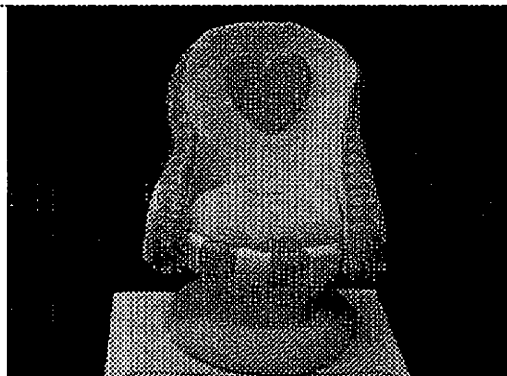
C 生徒 ひよこの背に座るイス。疲れているときに癒される。ウールでできており、さわり心地は、ふわふわとして温かい。色は、オレンジ味の黄色で、見る人の心を開き親しみやすくする。一見無表情だが、見る人の気持ちによって様々に解釈できるようにも工夫されている。



D 生徒 カラフルな配色とハート型の繰り返しによって、見る人の心をうきうきさせる効果をねらった作品。マケットでは表面に透明ジェルろうそくをかけて固め、やわらかな触感を演出した。ジェルろうそくほど脆くなく、強度のある柔らかな樹脂が開発されると、実現可能なイス。



E 生徒 籐で編んだイスという設定。マケットでは、心材にスチールワイヤーを使い梱包などに使われる紙紐を巻いて制作してある。程よくしなすることで、座ったときのクッション性を高める工夫となっている。



F 生徒 粘土で制作してあるが、イメージとしては、中にクッションが入っており、柔らかな布で覆われているという設定である。なめらかな曲線と、パステルカラーの配色が優しさを演出している。

4 研究の成果と今後の課題

このような題材を設定した成果としては、目の前に鑑賞する本物の作品を置き、触ったり座ったり持ち上げてみたりして鑑賞することで、課題に対しての答えを頭で考えても、それを裏切る感触を得られたり、考えを裏付ける感じを得られたりすることができたことが挙げられる。デザインや工芸の分野では、できるだけ本物を使った鑑賞を行いたい。ただし、闇雲に本物を与えるのではなく、目的に応じた作品を選びたい。今回は、様々な材料を使ってイスのマケットをつくるという目的があったために12～3種類のイスを用意したが、ある一人のデザイナーの考え方を知るという目的であれば、同じ形のイスを用いてじっくりと鑑賞していく形も考えられる。

また、言葉にすることで、自分がどう感じているかを明確にしたり、なぜかを問われることで、自分の中に隠れていた価値観（ツヤがあるものの方を好む、等）を明確にした上で、アイディアスケッチを行うことができたようだ。題材が違うこともあり単純に比較はできないが、1年生で、ライトのデザインを考えるとときに一つしか発想が浮かばなかった生徒も、今回は6種類のスケッチを記していた。

課題としては、美術に関する語彙の数を増やすことと、スケッチする技能の向上が挙げられる。イスの、脚のカーヴが美しいと感じ、それを表現したくても、技能が追いつかずにワークシートに表現できなかつたり、実際の制作に入ったときに、再現できなかつたりする姿が見られた。

また、時数が少ない中で、大まかな形を表すことができて精緻な表現や仕上がりの美しさ、こだわりをもって表現する（追求する）段階までは行かなかった。部活動や趣味で制作を行っている生徒と、授業の中だけで取り組んでいる生徒との作品の質の格差が大きい。技術・家庭科の課題としても伺ったことがあるが、身につけさせたい技能について、耳で聞き目で見たことがあるレベルの理解のみにとどまり、実際に手を動かしてつくれる、できるレベルにもっていくことが困難な点に関しては、課題であろう。「できる」よりも「わかる」「楽しむ」を重視することで、鑑賞者としての楽しみを増やすことは可能であるが、9教科の中でも表現の自由度が高い教科である美術で「できる」楽しみを味わわせることができないことは、残念である。重要な課題として受け止めたい。

しかし、鑑賞の授業では、楽しみながら話し合い、自分の感じ取ったことを明確にしていく生徒の姿が見られ、表現するときにも、昨年度までの生徒の中に見られたような、四角や円柱などの抽象的で見た目がスタイリッシュな作品だけでなく、座ったときに心地よい背もたれの形や角度を探していたり、曲線をつけたり、触感がよい材料を見つけて制作していたりといったように、実際に座って使うという目的に向かって夢中で制作する様子が見られ、よかったと思う。これからも、実際に触れたり、本物を用意することが難しければ、同じ大きさのコピーを使用するなどして、美術作品を体感的に鑑賞し、学んだことを制作や日常の生活の中に生かそうとする生徒の育成を目指したい。

参考文献

- ・「デザイン教育 ダイナミズム」 宮脇 理 編者 建帛社 1993年初版
- ・「いす100のかたち ヴィトラ・デザイン・ミュージアムの名品」 藤田 治彦 監修
読売新聞大阪本社 1997年
- ・「美しい椅子ー北欧4人の名匠のデザイナーー」 島崎 信 著
生活デザインミュージアム 2003年